

# 1. 評価結果概要表

評価確定日 平成19年 9月 26日

## 【評価実施概要】

事業所番号	2274201546
法人名	MS5 有限会社
事業所名	スローライフ 大谷
所在地 (電話番号)	〒422-8017 静岡市駿河区大谷2526-2 054-237-5780
評価機関名	セリオコーポレーション有限会社
所在地	静岡県静岡市清水区迎山町 4番1号
訪問調査日	平成19年6月20日

## 【情報提供票より】(平成 19 年 6 月 10 日事業所記入)

### (1)組織概要

開設年月日	平成 17 年 4 月 15 日		
ユニット数	2 ユニット	利用定員数計	18 人
職員数	15人	常勤 13人, 非常勤 2 人, 常勤換算 6人	

### (2)建物概要

建物形態	単独	新築
建物構造	軽量鉄骨2階建	造り
	2階建ての	1階 ~ 2階部分

### (3)利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃(平均月額)	46,000 円	その他の経費(月額)	61,000 円
敷金	有( 92,000 円)		
保証金の有無 (入居一時金含む)	有( 46,000 円)	有りの場合 償却の有無	無
食材料費	朝食	円	昼食 円
	夕食	円	おやつ 円
	または1日当たり		1,500 円

### (4)利用者の概要(平成 19年 6 月 10 日現在)

利用者人数	17 名	男性 1 名	女性 16 名
要介護1	4 名	要介護2	3 名
要介護3	6 名	要介護4	2 名
要介護5	1 名	要支援2	1 名
年齢	平均 85.2 歳	最低 72 歳	最高 97 歳

### (5)協力医療機関

協力医療機関名	静岡済生会総合病院、望月クリニック、小澤歯科 白萩病院
---------	-----------------------------

## 【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

ホーム周辺は、区画事業の整備中で大きく変わろうとしている。古い家屋は取り壊され、また他地域からの転居者もあり、そこでの生活環境も必然的に変化を伴ってきている。このような環境下にあるホームは、地域との共存・密着化は重要な課題とも言える。その点、代表者及び管理者はホームを「笑いの絶えない楽しい我が家」にすべく日夜奮戦している状況が随所に見られ、とても明るいホームが作り出されている。区画事業が修了する時期には、地域に根ざしたホームとしての活躍が期待される。

## 【重点項目への取り組み状況】

重点項目①	<p>前回評価での主な改善課題とその後の取り組み、改善状況(関連項目:外部4)</p> <p>前回の主な改善課題については、ほぼ改善の取り組みはみられるが、運営体制の確立がまだ十分とは言えない状況にあり、職員の定着化が課題である。</p>
	<p>今回の自己評価に対する取り組み状況(関連項目:外部4)</p> <p>評価について真摯に受け止め、改善意欲は十分伝わってきており、今後に期待したい。</p>
重点項目②	<p>運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取り組み(関連項目:外部4, 5, 6)</p> <p>運営推進会議は昨年立ち上げ開催したものの、出席者からの意見がなかったことから、以後は開催されていない。 地域密着型サービスについて運営推進会議の持つ役割等を再考された。</p>
重点項目③	<p>家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映(関連項目:外部7, 8)</p> <p>利用者のホームでの暮らしぶりや健康状態、金銭管理等について、家族の面会時や毎月の定期報告で家族からの意見・苦情・希望などを聞いて運営に反映させている。しかし、家族アンケートによると職員の定着化を指摘する声もあり、その面での取り組みが望まれる。</p>
重点項目④	<p>日常生活における地域との連携(関連項目:外部3)</p> <p>代表者は、地元で生まれ育った関係から地域とのつながりは濃く、自治会・町内会との関わり合いを大切にしているが、地域防災での地域住民との連携作りはこれからの課題である。</p>

## 2. 評価結果(詳細)

(  部分は重点項目です )

取り組みを期待したい項目

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
<b>I. 理念に基づく運営</b>					
<b>1. 理念と共有</b>					
1	1	○地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	笑いの絶えない楽しい我が家を理念とし、利用者、その家族あるいは地域の人達から何でも相談できるような体制作りに努めている。	○	利用者がその地域の中でその人らしく暮らせていけるようなサービスをホームとして支援するためには、地域のニーズや事業所の状況の変化に応じてより具体的な理念の構築が求められる。
2	2	○理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	理念の共有化と実践を図るため、日々のミーティングや全体会議の場において周知を行っている。	○	全職員が情報を共有できるシステムを考えて行かれない。(朝の挨拶やミーティング時のメモ取りなど)
<b>2. 地域との支えあい</b>					
3	5	○地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	代表者は、地元で生まれ育った関係から地域とのつながりは濃く、自治会・町内会とのつきあいもあり、地元の人々との交流に努めている。		
<b>3. 理念を実践するための制度の理解と活用</b>					
4	7	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	代表者、管理者とも自己評価及び外部評価の重要性の認識はあるものの、評価をまだ十分に活かすまでには至っていない。	○	評価について真摯に受け止め、改善意欲は十分に伝わっており、今後を期待したい。
5	8	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	昨年5月に開催した以降は開かれていない。	○	運営推進会議を通じて、推進会議のメンバーの方々にはホームの応援団となっただくとともに、ホーム側も地域の認知症のサポーターとしての役割り等を地域に還元していくという取り組みを、根気よく推進会議を開催継続し発展されることが望まれる。

静岡県グループホームスローライフ大谷

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
6	9	○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	特に行っていない。	○	機会あるごと(毎月がよい)に市担当窓口や関係機関に出掛けたり、電話するなどして、事業所の実情やケアサービスの取り組みをアピールされることを望みたい。
4. 理念を実践するための体制					
7	14	○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々に合わせた報告をしている	利用者のホームでの暮らしぶりや健康状態、金銭管理等について毎月定期的に家族へ報告している。		
8	15	○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	家族等が面会に訪れた際には面談を行っており、毎月の定期報告においても家族からの意見を取り寄せホームの運営に活かしている。		
9	18	○職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	離職を最小限に抑え運営に影響がでないよう取り運んでいるが、離職率は高い。	○	代表者、管理者、職員による会議の際、原因分析と対応策等について討論し、職員間の和の重要性を念頭に、職員の確保と異動による利用者への影響がないような施策の取り組みが望まれる。
5. 人材の育成と支援					
10	19	○職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	職員の確保に追われ、採用時や段階に応じた訓練・研修も十分とはいえない。	○	地域密着型サービスの質の確保は、非常勤やパート職員も含む個々の職員の質によって成り立っていることを認識され、日々の業務の中で比較的余裕のある時間帯や年間計画の中での研修を位置づけていく運営面での工夫が望まれる。
11	20	○同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	同業者との交流は行われていない。	○	ホームの質の確保と職員の定着化を図るためには、他の同業者との交流や連携が不可欠であることを認識され、積極的に近隣同業者との交流促進が望まれる。

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
<b>Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応					
12	26	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心して、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	利用者が環境に慣れるまで体験入居されたり、本人主体のカンファレンスをしながらか徐々に本人の負担にならないように家族と相談しながら進めている。		
13	27	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながらか喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	利用者本人ができる掃除、食事の支度などを通じて共に過ごし支えあう関係作りがされている。		
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
1. 一人ひとりの把握					
14	33	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	家族等から利用者の今までの暮らしぶり、趣味、嗜好、癖などの情報を収集し、本人の意向に沿うよう取り組みがされている。		
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し					
15	36	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	利用者本人や家族・関係者の意向を尊重して介護計画が作られてはいるが、十分活かされるまでには至っていない。	○	職員全員がケアの取り組みについて共通認識を持つためには、ケア会議の充実が望まれる。
16	37	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	日々の観察や介護日誌・ケース記録からカンファレンスを行い、現状に即した介護計画の見直しが行われている。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
<b>3. 多機能性を活かした柔軟な支援</b>					
17	39	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	利用者本人や家族の希望に応じて通院、買い物等の支援を行っている。		
<b>4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働</b>					
18	43	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	かかりつけの医院への通院の支援のほか、毎週2回契約先の医師の往診が行われている。		
19	47	○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	利用者本人や家族、かかりつけの医師を交えて話し合っており、重度化に伴う「意志確認書」を作成するなどして、ターミナルケアに向けた取り組みが行われている。		
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
<b>1. その人らしい暮らしの支援</b>					
<b>(1) 一人ひとりの尊重</b>					
20	50	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	個人記録等の管理保管は適切に行われ、職員からもプライバシーを損ねるような言動は見られなかった。		
21	52	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	利用者のゆっくりペースを見守り、本人の気持ち、生活態度・能力度合いによって、その人らしい暮らしを支援している。		

静岡県グループホームスローライフ大谷

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援					
22	54	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	職員は利用者と談話しながら楽しく一緒に食事をし、介助が必要な利用者には的確に対応している。ユニットに共同作業への取り組み方に温度差が感じられる。	○	老人食などの研修を通じて利用者個々に合わせた形態・量・盛り付けなどよりいっそうの取り組みを望みたい。
23	57	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	入浴は週3～4回行っているが、希望者には毎日朝又は夕方に入浴が楽しめるように支援している。		
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援					
24	59	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	利用者それぞれの過去の生活歴を尊重し、その人なりにできる仕事の役割りや趣味等を支援している。		
25	61	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	外出して陽に当たることや美味しい空気を吸うことは身体的にも大事なことで、晴れた穏やかな日には散歩、買い物等、また、利用者の希望による外出も行っている。		
(4) 安心と安全を支える支援					
26	66	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	基本的には、日中玄関には鍵をかけず、いつでも自由に外出できる状態になっているが、ユニット出入口や非常口に鍵がかけられている。	○	利用者の危険防止上、鍵を掛けているようであるが、職員による見守りが十分に配意され、また、鍵をかけることへの弊害を理解されることが望まれる。
27	71	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	年に2回ほど消防署の応援を得て災害訓練を実施しているが、地域住民への協力呼びかけは十分とは言えない。	○	地域住民の協力は不可欠であることを念頭に、自治会・町内会や運営推進会議で協力を呼びかけたり、また、日ごろから隣・近所とのお付き合いを大切に続けられることが望まれる。

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
(5) その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援					
28	77	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食べる量や水分量の摂取等を記録して、一人ひとりの健康状態に気を配っているが、的確な栄養摂取について承知していない。	○	定期的に栄養の専門的な観点からアドバイスを受け、これからは栄養ケアマネジメントに取り組まれる事が望まれる。
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり					
(1) 居心地のよい環境づくり					
29	81	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	共用空間は居心地よい環境が整備されているが、ダイニングや流し台付近は整理整頓がされていないほか、廊下には常時必要としない物品がおかれている。	○	ダイニングや流し台付近は常に整理整頓し、利用者が食器の後片付けできるような環境整備が望まれる。また、常時必要のない物品は、安全面からも廊下には置かないような工夫が望まれる。
30	83	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	各利用者の居室は、本人の使い慣れたものや、馴染みの家具などが持ち込まれており、自分の部屋といった配慮がされている。		